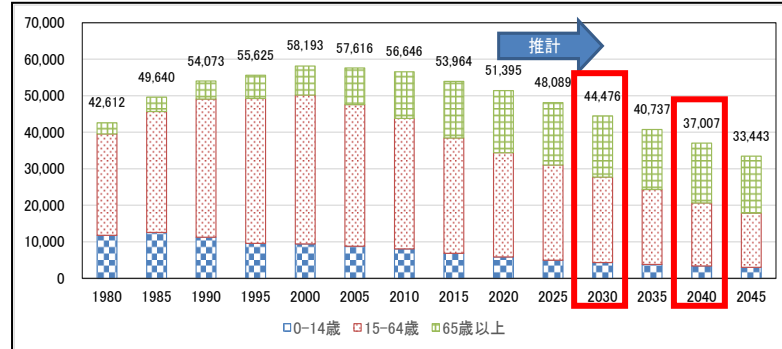


データからみえる課題(抜粋)

- 人口
  - ・2030年には、44,476人、2040年には37,007人まで減少する推計となっています。2025年の高齢化率は、35.4%まで上昇する見込み
- 産業
  - ・人口一人あたりの製造品出荷額等と年間商品販売額をみると、他市町に比べて市内の商業や産業が少ない構造
- 財政
  - ・高齢化の進展から、後期高齢者医療・介護保険の特別会計への繰出金が増加傾向にあり、今後も高齢者増加に伴う社会保障関連費用の増加が見込まれ、財政を圧迫すると想定



基礎調査からみえる現状と課題(抜粋)

- 中学生アンケート
  - ・阪南市が「好き」・「どちらかと言えば好き」の割合は全体の8割以上
  - ・好きなどころでは、1位の回答として、「自然環境の豊かさ」「祭りやイベントなどの多さや楽しさ」「学校の楽しさ」
  - ・足りないところでは、1位の回答として、「多くの人を訪れる場所の多さ」「スポーツなどの外で遊ぶ場所の多さ」「将来の働く場所の多さ」
  - ・将来なりたい職業は、「会社員(14.5%)」、「公務員(13.0%)」が上位

- 地域まちづくり座談会
  - ・自分ごととして捉えられるセーフティネットの構築
  - ・子どもの頃から社会課題に触れ、地域の困りごとを共有する仕組み
  - ・認知症などの病気へ進行させない「歩く文化」の構築

- 地区懇談会・まちづくりアンケート
  - ・子育て世代をサポートし、暮らしやすい環境を整備
  - ・子育て層に力を入れて、阪南市の将来構造の見直し
  - ・今の時代にあった働き方を支援できるスペースや機能を整備
  - ・多様な地域プレイヤーによるチャレンジするまちづくりの様相を明示
  - ・企業誘致、空き家・廃校の利用促進と地域に根差した管理・運営ができる使い方の検討など

現総合計画の振り返り(抜粋)

- 協働社会
  - ・市民協働事業の拡充、各媒体の情報発信力の強化
  - ・チャレンジする人に対して伴走できる仕組みづくり など
- 健康・福祉
  - ・健康寿命の延伸、要支援・要介護認定に進ませない効果的な仕組みづくり
  - ・共働き世帯の増加に伴う保育需要への対応 など
- 生活環境
  - ・自主防災組織の担い手の確保や役割分担、連携体制などの更新
  - ・適正な防災の推進、ゼロカーボンシティ宣言とSDGsとの連動 など
- 教育・生涯学習
  - ・小学校・中学校と連続する過程において地域ぐるみによる教育環境づくり、子ども支援員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの適正な配置
  - ・「阪南市はこんなまち」といった誇りと愛着を持って語る事ができるよう、郷土理解を深める学習の充実 など
- 産業
  - ・観光コンテンツの磨き上げやプロモーションの展開
  - ・地域で働くことができる環境の創出、地場産業をはじめとした商工業の振興、地産地消による漁港のにぎわい創出 など
- 都市基盤
  - ・働く場所や人の集まる場所をつくる都市基盤(エリアマネジメント等)
  - ・コンパクトシティの推進 など
- 行政経営
  - ・行財政構造改革プランによる適切な財政運営
  - ・社会環境の変化に対応できる市役所 など

各種整理からみえる必要とされる阪南市の方向性(抜粋)

- 【社会情勢の変化(人口減少)に対して】
  - ・若年層が多様なキャリアを描き、チャレンジできる環境の整備
  - ・時代に合わせたデジタルワークプレイスの確立
  - ・ICTやSNS等を活用した市民との「ほどよい」関係構築
  - ・地域で活躍するプレイヤーが動きやすい環境の整備
  - ・企業や大学などに利用してもらえる自由度の高い環境整備
- 【市の構造変化(市の収入減少・支出増大)に対して】
  - ・現高齢者、将来の高齢者層に対する健康増進施策の展開
  - ・新たな企業誘致など稼ぐまちへの転換
  - ・多様な働き方をしている層にアプローチした「楽しむまち」としてのブランディングを確立 など

阪南市はどんなまちづくりをするのか？

将来のビジョン

ONE ACTION ～時代の1歩先をゆくまち～

市民一人ひとりが一歩踏み出すことで、未来が形づくられ、やがて太い幹となるまち

「1歩先をゆく」とは、  
 都市構造(ハード面):ICTの導入、スマートシティへの転換など、社会環境変化に対応するまちづくり  
 施策等の展開(ソフト面):「協働」の主体がまちづくりで培った関係性を軸としつつ、「人の行動変容を促していく」まちづくり

将来の都市像

『共創による新しい地域価値が創造され、  
 誰もが輝ける舞台都市・阪南』

\* 共創:協働のなかでも新しい価値や事業など創造・構築していく段階からの取り組み

- ▶人がつながり、地域がつながる共創のまち  
 柱:多様な価値観の尊重、ゆるやかな関係性、チャレンジできるまちづくり、にぎわいの創出
- ▶子どもが地域で育ち・支え合うまち  
 柱:子どもの学びや遊び、地域が一体となったまちづくり、まちぐるみでの子育て力の向上、新しい生活様式や技術への対応
- ▶自分らしく、生涯活躍できるまち  
 柱:見守り・支え合い、自分らしく輝ける「舞台」、安全・安心、楽しく健康に過ごせるまち

重点基本方針

- 【基本目標1】人と地域がつながり、多様な価値観とにぎわいによる共創のまち
  - ・地域まちづくり協議会の設置、公民連携の仕組みづくり
  - ・多様な年代がチャレンジできるまちづくり、市の魅力を高める情報発信 など
- 【基本目標2】誰もが、健やかにいきいきと暮らせるまち
  - ・健康寿命の延伸、ライフステージ・ライフスタイルに応じた健康づくり
  - ・子どもが健やかに育つ環境の形成 など
- 【基本目標3】安全に、安心して暮らせる住み続けたいと思えるまち
  - ・防災・防犯意識の向上
  - ・環境負荷の低減、循環型社会の形成 など
- 【基本目標4】人生100年時代を迎え、誰もが学んだ成果を地域で活かして輝けるまち
  - ・質の高い充実した教育・保育、子どもから高齢者まで学ぶ機会の充実
  - ・多文化共生や国際理解を深め誰もが生活しやすいまち など
- 【基本目標5】にぎわいと交流を促し、自然環境と調和した未来のまち
  - ・地域産業の活性化
  - ・持続可能な施設管理の仕組み など
- 【基本目標6】持続可能な発展を支える行政経営のまち
  - ・各施策の進捗支援、健全な財政基盤の構築
  - ・人材育成、業務効率化や生産性向上など行政改革 など

基本目標

土地利用の方向性

① にぎわいのある拠点の創出

・持続可能なまちづくりへ発展させていくため、尾崎駅周辺と市役所などの都市拠点を中心拠点として位置付けます。尾崎駅周辺エリアの都市機能を強化していくため、エリアマネジメントの考え方を導入し、持続可能な管理運営、利害の関係する主体(ステークホルダー)が主体的に管理運営する仕組みなど、共創や公民連携のまちづくりを進めます。  
 ・公共交通でのアクセス性が確保され、過度に車依存しない、生活サービスやコミュニティが持続的に確保される住環境づくりをめざしていくため、「歩く文化」の形成の核として、公共交通ネットワークの形成により出かけやすいまちづくりを推進します。

② 潜在的ポテンシャルを活かす土地利用

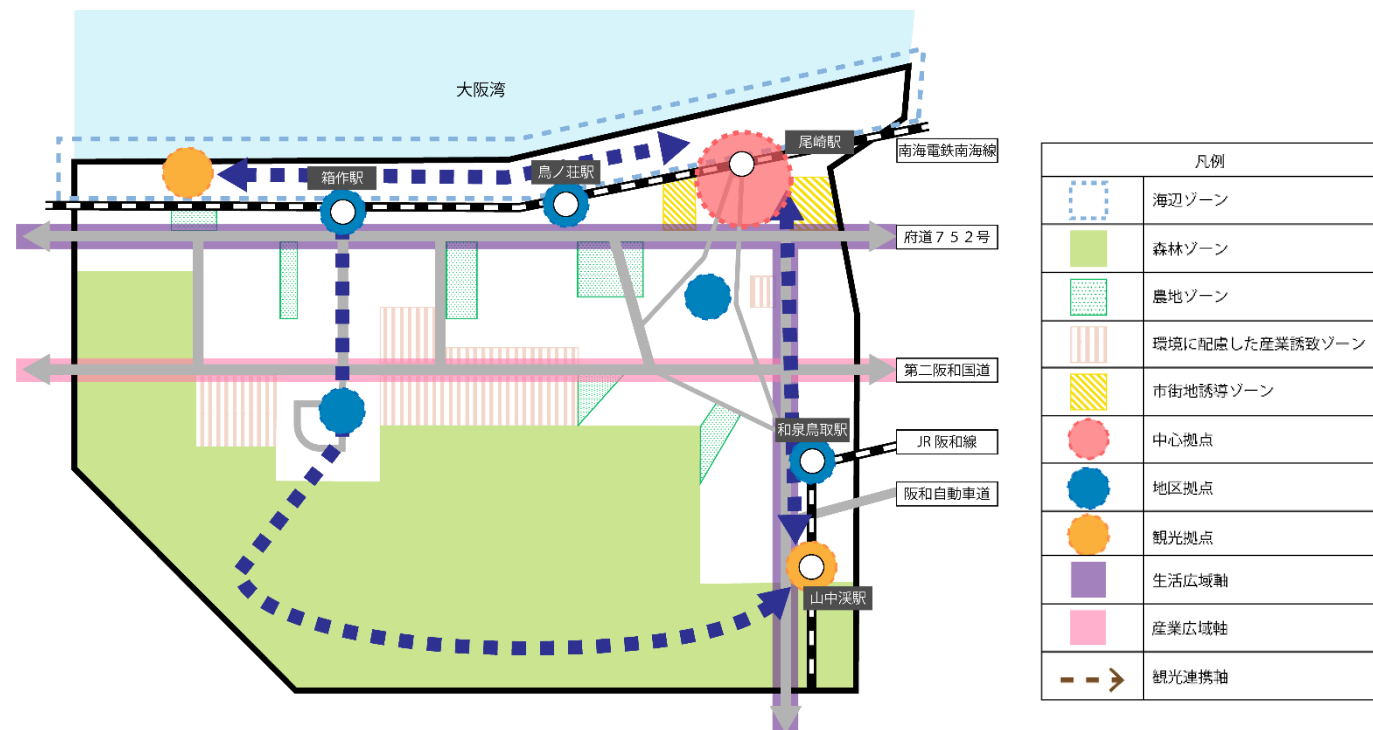
・大阪市や和歌山市などの南北の都市の発展や近隣市町のにぎわい拠点などを考慮しつつ、関西国際空港圏や広域交通網などによるポテンシャルを活かした産業の誘致を推進します。内陸丘陵部地域においては、周辺の自然環境との調和を図り調和を図りつつ、広域幹線道路を活かし、産業誘致による土地利用の促進を図ります。また、広域交通網の整備促進に伴い、産業の誘致により、雇用創出や地域活性化などのまちの発展・経済に寄与することが期待できます。  
 ・山間部に位置する山中溪地区及び海辺に位置するせんなん里海公園などにおいては、ポテンシャルを活かし、市域の観光・レジャー機能の充実を目指し、レクリエーションなどにおける観光連携を図ります。

③ 新たな価値の創造

・既存市街地や市街地誘導ゾーンにおいては、地域コミュニティの規模を勘案し、多機能なコミュニティ拠点づくりを推進し、福祉システムがマッチしたまちの設計やストックの有効活用に取り組みます。また、新しい働き方への対応など、住環境を保全するなかで、新しい価値の創造を図ることで、さらなる居住を促進します。

④ 良好な自然環境を活かした土地利用

・森林や海辺を含む災害防止などの公益的な役割を果たす地域、地質、野生動物などの貴重な資源が存在する地域などは、自然環境の保全や森林資源・海洋資源の育成などを推進します。また、豊かな里山・里海で形成される自然環境を守るとともに、これらの地域資源を最大限に活かした美しい魅力ある地域づくりを推進します。



※エリアマネジメント：特定エリアにおいて、民間が主体的にまた官民協働でまちづくり活動、土地利用など地域経営を積極的に行う取り組み

土地利用の基本方針

ゾーン及び拠点の区分		土地利用の方針
拠点	中心拠点	尾崎駅前のにぎわい創出や中心市街地の活性化、利便性のある良好な住宅地、地域をネットワークする公共交通網など、快適で機能的な都市環境を整備します。 また、尾崎駅周辺エリアを中心としたエリアマネジメントにより、中心市街地にふさわしい魅力とにぎわいのあるまちづくりを進めます。
	地区拠点(地域共創の拠点)	身近な生活圏域において多機能な住民自治を構築していくため、生涯学習などからまちづくりなどのコミュニティ活動を推進していく拠点を形成します。
	観光(レクリエーション含む)拠点	山中溪地区は、紀州街道の歴史的な街並みを活かし、景観に配慮した回遊性のあるエリアとします。 せんなん里海公園では、観光レクリエーション活動を推進します。
ゾーン	環境に配慮された産業誘致ゾーン	周辺の自然環境との調和を図りつつ、国道26号(第二阪和国道)などの広域幹線道路を活かし、産業誘致による土地利用の促進を図るゾーンとします。
	市街地誘導ゾーン	中心拠点を支援・補完する機能として、医療・福祉施設や良好な住宅地形成を促進するゾーンとします。
	森林保全ゾーン	生活広域軸に沿った周辺居住環境に配慮しつつ、歴史文化や古い街並みなどを継承した歴史文化資源や観光資源を活用した土地利用を進めるゾーンとします。また、せんなん里海公園においては、市域の観光・レジャー機能の充実を目指した土地利用の促進を図ります。
	海辺ゾーン	生活広域軸に沿った周辺居住環境に配慮しつつ、歴史文化や古い街並みなどを継承した歴史文化資源や観光資源を活用した土地利用を進めるゾーンとします。また、せんなん里海公園においては、市域の観光・レジャー機能の充実を目指した土地利用の促進を図ります。
広域・連携軸	生活広域軸	尾崎・鳥取ノ荘・箱作駅・和泉鳥取駅周辺や近隣都市との市民の生活動線として、広域幹線道路や鉄道などの公共交通ネットワークを進め、市民の利便性を向上させ、市民生活の活性化を図ります。
	産業広域軸	第二阪和国道の交通アクセスの利便性を活用し、広域で物流・産業の流動化を図ります。また、周辺環境に配慮しつつ、産業誘致を促進し、雇用の場となる活力ある産業の創出など、地域経済の発展を進めます。
	観光連携軸	中心拠点を基点として、海や山の自然環境、歴史的観光資源などのある拠点をつなぎます。また、豊かな自然が残る和泉山脈のハイキングコースや海浜レジャー・レクリエーション空間を活かし、市内の回遊を促します。